MicroPatent® Family Lookup

Stage 1 Patent Family - "Complex"					Priorities and Applications			
	CC	Document Number	KD	Publication Date	СС	Application or Priority Number	KD	Application or Priority Date
	AT	227594	Т	20021115	AT EP	1996110222 1996110222	T A	19960625 19960625
	AU	199723613	A	19980115	EP AU	1996110222 199723613	A D	19960625 19970523
	AU	706996	B2	19990701	EP AU	1996110222 199723613	A A	19960625 19970523
	CA	2205718	A1	19971225	EP CA	1996110222 2205718	A A	19960625 19970520
	CA	2205718	С	20000118	EP CA	1996110222 2205718	A A	19960625 19970520
	DE	69624803	D1	20021219	DE EP	69624803 1996110222	A A	19960625 19960625
	DE	69624803	T2	20030724	EP DE	1996110222 69624803	A T	19960625 19960625
	EP	815892	A1	19980107	EP	1996110222	A	19960625
	EP	815892	B1	20021113	EP	1996110222	A	19960625
	JP	10057499	A	19980303	EP JP	1996110222 1997168728	A A	19960625 19970625
	JP	3241635	B2	20011225	EP JP	1996110222 1997168728	A A	19960625 19970625
	US	6039700	A	20000321	EP US	1996110222 1996764531	A A	19960625 19961212
nform on the covers	nation right the c	corresponding a	applica	ation <u>and</u> priority	data f	eation number, kind for each publication I can differ from an	.	
Add Selected Documents to Order Display the Extended Patent Family								

Copyright © 2004, MicroPatent, LLC. The contents of this page are the property of MicroPatent, LLC including without limitation all text, html, asp, javascript and xml. All rights herein are reserved to the owner and this page cannot be reproduced without the express permission of the owner.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

10-057499

(43) Date of publication of application: 03.03.1998

(51)Int.Cl.

(21)Application number: 09-168728

(71)Applicant:

SCHNEIDER EUROP AG

(22)Date of filing: 25.06.1997 (72)Inventor:

A61M 25/01

SAUTER HERBERT

(30)Priority

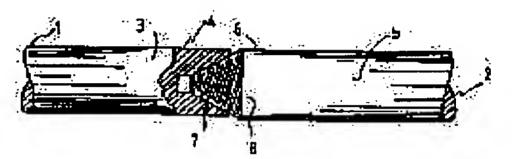
Priority number : 96 96110222

Priority date: 25.06.1996 Priority country: EP

(54) CONNECTION ASSEMBLY FOR GUIDE WIRE AND EXTENSION WIRE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily and effectively manufacture a connection assembly for detachably connecting a guide wire and an extension wire. SOLUTION: This connection assembly is constituted of a plug 5 and a socket 3 and extends the guide wire 1 by the extension wire 2. The plug 5 is formed at the tip part 6 of the extension wire 2 and the socket 3 is formed at the base end part 4 of the guide wire 1. On the inner side of the socket 3, a conical female screw part 7 is provided. On the outer side of the plug 5, a conical male screw part 8 are provided. Just by inserting and screwing the conical male screw part 8 to the conical female screw part 7, the guide wire 1 and the extension wire 2 are assembled.



(19)日本國特許庁(JP) (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-57499

(43)公開日 平成10年(1998) 3月3日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

 \mathbf{F} I

技術表示箇所

A61M 25/01

A 6 1 M 25/00

450B

審査請求 未請求 請求項の数11 OL (全 7 頁)

(21)出願番号

特願平9-168728

(22) 出顧日

平成9年(1997)6月25日

(31)優先権主張番号 96110222.5

(32)優先日

1996年6月25日

(33)優先権主張国 スイス (CH)

(71)出願人 591042757

シュナイダー・(オイローペ)・アクチェ

ンゲゼルシャフト

SCHNEIDER (EUROPE) A

KTIENGESELLSCHFT

スイス連邦 8180 ビュラック, アッカー

シュトラーセ 6

(72)発明者 ヘルベルト・ザウター

- スイス国ツェーハーー8185 ヴィンケルー

リュッティ, ヴィーセンタールシュトラー

セ 10

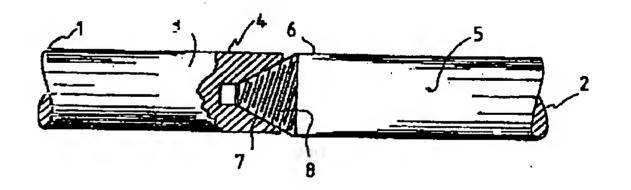
(74)代理人 弁理士 社本 一夫 (外5名)

(54) 【発明の名称】 ガイドワイヤ及び延長ワイヤ用の結合アセンブリ

(57)【要約】

【課題】 ガイドワイヤ及び延長ワイヤを取り外し可能 に結合する結合アセンブリを簡単且つ効果的に製造でき るようにする。

【解決手段】 結合アセンブリは、プラグ5及びソケッ ト3から構成されていて、ガイドワイヤ1を延長ワイヤ 2で延長させる。プラグ5は、延長ワイヤ2の先端部6 に形成されている。ソケット3は、ガイドワイヤ1の基 端部4に形成されている。ソケット3の内側には、円錐 形の雌ネジ部7が設けられている。プラグ5の外側に は、円錐形の雄ネジ部8が設けられている。円錐形の雄 ネジ部8を円錐形の雌ネジ部7に挿入して螺合させるだ けで、ガイドワイヤ1及び延長ワイヤ2を組み立てるこ とができる。



【特許請求の範囲】

. .

【請求項1】 ガイドワイヤ(1、11、22、28)を延長ワイヤ(2、14)で延長させるための結合アセンブリであって、前記ガイドワイヤ及び延長ワイヤの中の一方の結合端に形成されるソケット手段(3、9、20)と、前記ガイドワイヤ及び延長ワイヤの中の他方の結合端に形成されるプラグ手段(5、12、26)と、該プラグ手段と前記ソケット手段とを取り外し可能に接続するためのかみ合い手段とを備えた結合アセンブリにおいて、該かみ合い手段とを備えた結合アセンブリにおいて、該かみ合い手段は、前記ソケット手段及び前記プラグ手段の中の一方に形成されていて螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(8、18)と、前記ソケット手段及び前記プラグ手段の中の他方に形成されていて前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段にネジ式に係合するための係合手段(7、16、24、29)とを含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項2】 請求項1の結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段は、前記プラグ手段(5)に形成された円錐形の雄ネジ部(8)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項3】 請求項1の結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段は、前記プラグ手段(12)に設けられた円錐形のコイル(18)を含んでいるとを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項4】 請求項1乃至3のいずれかの結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(8、18)にネジ式に係合するための前記手段は、前記ソケット手段(3)に形成された円錐形の雌ネジ部(7)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項5】 請求項1乃至3のいずれかの結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(8、18)にネジ式に係合するための前記手段は、前記ソケット手段(9)に形成された円錐形のコイル(16)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項6】 請求項1乃至3のいずれかの結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(8、18)にネジ式に係合するための前記手段は、前記ソケット手段(20)の中に固定されたリング手段(24)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項7】 請求項6の結合アセンブリにおいて、前記リング手段(24)は、円形の内側隆起部(25)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項8】 請求項1の結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(7、16)は、前記ソケット手段(3、9)に形成されており、前記プラグ手段(26)は、該プラグ手段に形成されていて前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段(7、16)にネジ式に係合するためのリング手段(29)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項9】 請求項8の結合アセンブリにおいて、前記リング手段(29)は、円形の外側隆起部(30)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項10】 請求項8又は9の結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段は、円錐形の雌ネジ部(7)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【請求項11】 請求項8又は9の結合アセンブリにおいて、前記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段は、円錐形のコイル(16)を含んでいることを特徴とする結合アセンブリ。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、ガイドワイヤを延長ワイヤで延長させるための結合アセンブリであって、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの中の一方の結合端に形成されたソケット手段と、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの中の他方の結合端に形成されたプラグ手段と、プラグ手段をソケット手段に取り外し可能に接続するためのかみ合い手段とを備えている、結合アセンブリに関する。【0002】

【従来の技術】経皮経腔心臓血管形成術の如き血管の施 術においては、ガイドワイヤを用いてカテーテルを定置 することは、一般的な手法である。ガイドワイヤは、一 般的に、該ガイドワイヤと共に使用されるカテーテルよ りも若干長く、従って、カテーテルを適所に定置する と、ガイドワイヤの比較的短い部分がカテーテルから基 端側に突出する。例えば、血管形成術においてバルーン のサイズを増大させるために、カテーテルを交換する必 要性が生じた場合には、ガイドワイヤを取り除いて、カ テーテルの長さの約二倍の長さを有する交換ワイヤと交 換し、これにより、カテーテルを引き抜いて、新しいカ テーテルを交換ワイヤに被せることができるようにす る。しかしながら、この手法はかなり煩雑であって、血 管の処置が遅くなる。従って、延長ワイヤを最初のガイ ドワイヤに取り付けて、ガイドワイヤを交換する必要性 を排除する試みが行われてきた。

【0003】上に概略的に説明した結合アセンブリが、欧州特許0383159A1(EP0383159A1)に示されており、この欧州特許においては、血管の施術を行うための延長可能なガイドワイヤ装置は、その基端部に雄ネジ部を有しているメイン部分と、雌型接続部材を有している延長部分とを備えており、上記雌型接続部材は、その先端部に設けられる内ネジと、その基端部に設けられるカラーとを有している。上記雌型接続部材は、上記延長部分の先端部に設けられたボール型の部分は、上記雌型接続部材と内ネジとの間に位置していて、上記雌型接続部材が自由に回転できるようにしている。従って、アセンブリの接続(結合)は、回転可能な雌型部材を雄

型部材の周囲に手で螺合させることにより行われ、アセンブリの分解(取り外し)は、逆の手順で行われる。そのような操作は、雌型部材のボール取付部によって、容易に行うことができる。しかしながら、上記構造は、比較的安全に接続するために、数回の回転を必要とする。また、ボールで取り付けられたネジ接続部は、セフルロッキング機能を全く有しておらず、これにより、血管の施術の間にガイドワイヤを操作することにより、上記接続部が緩んでしまう危険性がある。

【0004】同様の目的を目指した別の結合アセンブリ が、米国特許第5,234,002号に記載されてお り、この米国特許は、ガイドワイヤの基端部に雄ネジが 形成されており、また、延長ワイヤの先端部には管状部 材が形成されている、カテーテル交換装置を示してい る。上記管状部材は、ガイドワイヤの雄ネジとかみ合う ための内側の雌ネジを有している。貫通する内側管腔を 有している円筒体を形成する接続部材が、延長ワイヤの 上記管状部材に摩擦的に係合して該管状部材を固定して いる。従って、接続部材を回転させると、延長ワイヤが 回転する。接続部材は、その壁部に沿って設けられる長 手方向のスリットと、ガイドワイヤの基端部を収容する ための拡がった入口とを有している。上記接続部材をガ イドワイヤの基端部の周囲に係合させ、上記接続部材を 回転させて、延長ワイヤの先端部の雌ネジをガイドワイ ヤの基端部の雄ネジとかみ合わせることにより、ガイド ワイヤと延長ワイヤを接続することができる。雌ネジが 雄ネジの周囲に完全に係合したことは、接続部材が管状 部材に関して摺動的に回転することにより分かる。次 に、接続部材を取り除く必要があるが、上記スリット は、接続部材を管状部材から引き離すことによって、管 状部材から接続部材を分離することを可能とする。アセ ンブリを分解するためには、延長ワイヤを捻って、該延 長ワイヤとガイドワイヤとの間のネジ式の接続部を分離 する必要がある。この装置も、比較的安全に接続するた めに、数回の回転を必要とするが、更に、延長ワイヤが かなり捻られて、縺れたり損傷を受けたりする危険性が 高いという欠点を有している。また、上記ネジ式の接続 部もセフルロッキングの機能を全く有していない。従っ て、ストローク構造の何等かの終端部又は当接部に当た るまで、アセンブリを完全に捻る必要があり、その結 果、延長ワイヤの捻れが増大する。あるいは、血管の施 術の間にガイドワイヤを操作することにより、接続部が 緩む危険性を覚悟しなければならない。また、接続部材 を延長ワイヤの管状部材から剥がすことによって接続部 材を取り除くのは、困難であり繊細な作業である。

【0005】同様な目的で、W093/03664は、 延長可能なガイドワイヤ装置を示している。このガイド ワイヤ装置においては、ガイドワイヤの基端部は、部分 的に緩く巻かれていて隣接するコイルの回旋部の間に隙 間を形成している螺旋コイルで終端となっている。延長

ワイヤの先端部も、部分的に緩く巻かれていて隣接する コイルの回旋部の間に隙間を形成している螺旋コイルで 終点となっている。これらのコイルは、互いに整合して 相対的に回転し、それぞれの隔置されたコイルが互いに 係合するようになっている。螺旋コイルの旋回可能な取 り付けは、ガイドワイヤ又は延長ワイヤの捻れを防止す ることができる。整合した状態で係合するコイルは、螺 旋コイルの不整合が生じた場合には、容易に絡まるの で、別の実施例においては、対応する螺旋コイルの中の 延長ワイヤにガイドピンを取り付けている。このガイド ピンは、ガイドワイヤの螺旋コイルの内側に嵌合するよ うな寸法を有している。しかしながら、そのような解決 策には限界がある。ガイドピンが、螺旋コイルの中に比 較的緊密に嵌合しない場合には、接続部は、幾分可撓性 を有するが、コイルは、深刻な絡まりを生ずる恐れがあ る。また、ガイドピンが螺旋コイルの中に比較的緊密に 嵌合する場合には、絡まりを生ずる危険性は減少する が、接続部は、螺旋コイルとの係合部全体にわたって、 堅くなる。また、そのような装置は、独自のセフルロッ キング機能を有していないので、血管施術の間に、接続 部が緩む危険性がある。

【0006】他の構造も可能である。例えば、WO93 /14805は、ガイドワイヤ延長装置を示している。 このガイドワイヤ延長装置は、管状体によって形成され ているターンバックル・ナットを備えている。このター ンバックルの中には、螺旋状に巻かれた右側のワイヤ、 及び、螺旋状に巻かれた左側のワイヤが取り付けられて いて、それぞれ、右側の螺旋溝及び左側の螺旋溝を形成 している。ガイドワイヤの基端部、及び、延長ワイヤの 先端部は共に、テーパ形状になっていて、ターンバック ル・ナットの溝に係合するための平坦な先端を各々有し ている。組み立てを行うためには、延長ワイヤ及びガイ ドワイヤの平坦な先端を、ターンバックル・ナットの両 端部にそれぞれ係合させ、該ターンバックル・ナットを 回転させる。これにより、上記平坦な先端は、上記左側 の螺旋溝及び右側の螺旋溝にそれぞれ沿って移動する。 従って、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの平坦な先端は、 右側の螺旋溝及び左側の螺旋溝のそれぞれの端部で出会 うことになる。ガイドワイヤ及び延長ワイヤを分解する ためには、ターンバックル・ナットを反対方向に回転さ せて、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの平坦な先端を対応 する螺旋溝に沿って動かして、それぞれの平坦な先端を ターンバックルの外方に出す。このアセンブリは、自由 に捻って接続することができるが、接続及び分解を行う ために、ターンバックルを複数回回転させる必要があ る。また、上記アセンブリは、独自のセフルロッキング 機能を全く有していないので、ガイドワイヤ及び延長ワ イヤの先端を、互いに出会うまで共に完全に捻って、そ の間にある程度の摩擦接触を行わせるか、あるいは、ガ イドワイヤ、延長ワイヤ及びターンバックルの端縁部の

間にある程度の摩擦接触を行わせて、血管施術の間にア センブリが緩むのを阻止する必要がある。これとは別 に、上記装置は、両手による操作を容易には許容しな い。その理由は、3つの要素を同時にマスターする必要 があり、これにより、より多くの人間に操作手順を助言 しなければならないからである。変形例として、その基 本的な機能を維持しながら、ターンバックル・ナットを 延長ワイヤの先端部にかしめることができる。これは、 両手による操作を容易にするが、かしめ部を正確に位置 決めして、延長ワイヤの先端部が溝に係合する前に、タ ーンバックル・ナットの長手方向の十分な遊びを許容 し、これにより、ガイドワイヤの基端部がその対応する 溝に不十分に係合する危険性を排除して、ターンバック ルの機能によって安全な接続を行うようにする必要があ る。これは、両手による操作を複雑にする可能性があ る。

140

【0007】米国特許第5,117,838号は、ガイ ドワイヤの丸まった基端部に取り外し可能に接続される ようになされた延長ガイドワイヤを備える、ガイドワイ ヤ延長装置を開示している。延長ワイヤの先端部は、管 の中に設けられている。該管の中には、ピッチが開いた 平坦なワイヤから成るコイルバネが設けられている。こ のコイルバネの一方の端部は、延長ワイヤの先端部の周 囲に溶接されており、一方、上記コイルバネの他端部 は、上記管の中を自由に伸長している。上記管の中で は、止め具が、上記コイルバネの自由端が上記管から自 由に出るのを防止している。取り扱いを容易にするため に、拡がった入口を有する円筒形の構造の整合工具が、 上記管をその一端部に収容し、また、最初のガイドワイ ヤの基端部をその他端部に収容するようになっている。 接続を行うために、ガイドワイヤの丸くなった端部、及 び、延長ワイヤの上記管が、上記整合工具の中に挿入さ れ、ガイドワイヤの上記丸くなった端部は、平坦なワイ ヤから成る上記コイルバネに係合して延長ワイヤの対応 する端部に着座するまで、上記管の中に押し込まれる。 ガイドワイヤの丸くなった端部が、平坦なワイヤから成 る上記バネのコイルの中に挿入されると、上記コイルが 押圧されて若干ゆるみ、ガイドワイヤの端部をコイルバ ネから離れる方向に引っ張る軸方向の力が、そのコイル を、該コイルとガイドワイヤの丸くなった端部との間の 接続を行っている小さい方の直径に向かって動かす。こ のアセンブリを分解するためには、延長ワイヤを回転さ せて、ガイドワイヤの丸くなった端部に対するコイルバ ネの把持力を緩めると同時に、ガイドワイヤをバネのコ イルから離す必要がある。このアセンブリは、セフルロ ッキング接続をもたらすが、このセフルロッキング接続 は、分解する操作及び技術に依存し、また、接続を行う ための整合工具にも依存する。分解を行うために延長ワ イヤを捻る作業を最小限にするために、更に別の実施例 は、平坦なワイヤから成るコイルバネを収容している管 を旋回可能に取り付けている。しかしながら、この構成 は、機械的な複雑性が増大し、その結果、旋回可能な管 が延長ワイヤの先端部の上で動かなくなる危険性がある という欠点を有している。

【0008】米国特許第5,197,486号は、取り 外し可能なガイドワイヤ延長装置を示しており、このガ イドワイヤ延長装置においては、ガイドワイヤの基端部 には、直径の小さなロッドが設けられており、このロッ ドは、延長ワイヤの先端部に取り付けられている接続ソ ケットに嵌合するようになされている。この接続ソケッ トは、管状のハウジングを備えている。このハウジング は、その基端部が該ハウジングの基端部に取り付けられ ている螺旋コイルを収容している。接続ソケットは、ま た、ハウジングの内径よりも若干小さい外径を有してい る。上記ハウジングは、その先端部に、内方に向かう円 形のリップ部を有していて、螺旋コイルがハウジングか ら外方に伸長するのを防止している。上記コイルの内径 は、ガイドワイヤの基端部にあるロッドの外径よりも小 さい。この装置の接続は、上記ロッドをハウジングの中 に押し込み、上記コイルを膨張させて上記ロッドを収容 するようにすることによって行われる。延長ワイヤを若 干回転させることによって、ロッドをコイルの中に容易 に挿入することができる。このアセンブリを分解するた めには、ガイドワイヤを保持しながら、延長ワイヤを回 転させ、これにより、ロッドに対するコイルの把持力を 緩め、その間に、ガイドワイヤ及び延長ワイヤを分離す る必要がある。この操作は、上述の米国特許第5,11 7,838号の第1の実施例と実質的に同じ操作であ る。そのような構造と同様に、特に、延長ワイヤをハウ ジングから外方に引っ張りながら、延長ワイヤを回転さ せる必要があるので、分解する操作及び技術に依存する セフルロッキング機能がもたらされる。

【0009】米国特許第5,109,867号は、膨張 可能なガイドワイヤアセンブリを開示している。このガ イドワイヤアセンブリは、ガイドワイヤ及び延長ガイド ワイヤの対応する端部にそれぞれ取り付けられた、軸方 向においてかみ合うインターロック部材と、後退可能な バネ偏倚されたスリーブとを備えている。このスリーブ は、インターロック部材が互いにかみ合うことができる ように、後退しなければならない。次に、上記スリーブ を伸長させてかみ合ったインターロック部材を包囲し、 これにより、そのようなかみ合った状態を維持する必要 がある。従って、このアセンブリをロックするために は、最初に、上記スリーブを後退させて、インターロッ ク部材の一方を完全に自由にし、次に、他方のインター ロック部材を、第1のインターロック部材とかみ合わ せ、最後に、バネ偏倚された上記スリーブを両方のイン ターロック部材の周囲で動かして、かみ合った状態を維 持する必要がある。装置を分解するためには、両方のイ ンターロック部材が自由になるまでスリーブを後退させ て、インターロック部材を分離するだけで十分である。この装置の種々の実施例が示しており、そのような実施例においては、上記インターロック(かみ合い)は、2つのコイル部材を重ね合わせることにより、あるいは、フック状の部材を重ね合わせることにより、若しくは、円筒形の頭部を長穴に挿入することにより、行われる。要素が多く、閉塞又は詰まりを生ずる可能性があるという点とは別に、上述のインターロック部材は、操作を行うのが困難である。その理由は、インターロック部材をかみ合わせるために、バネ偏倚されたスリーブを後退させる必要があるからである。従って、両手による操作は危険であり、従って、患者の周囲により多くの人間を配置する必要がある。

【0010】米国特許第5,195,535号は、ガイ ドワイヤ及び延長ガイドワイヤを接続するための接続装 置に関するものである。この接続装置においては、ガイ ドワイヤの基端部はソケットで終端となっており、一 方、延長ガイドワイヤの先端部は、運動可能なスリーブ を担持する小径の端部分を有するワイヤを備えている。 楔作用を行う要素(楔要素)が、上記ワイヤの小径の端 部分の先端に取り付けられており、また、管状のハンド ルの先端部が、上記運動可能なスリーブの基端部に取り 付けられている。接続を行うためには、最初に、延長ワ イヤ及びその楔要素を保持しながらすなわち押しなが ら、管状のハンドルを基端側に引っ張ることによって、 スリーブを延長ワイヤの周囲で基端側に引き抜く。次 に、上記ワイヤ及びハンドルを同時に先端側に押すこと により、上記ワイヤ及びスリーブをガイドワイヤのソケ ットに挿入する。次に、ハンドルを保持してスリーブを ソケットの中に維持しながら、延長ワイヤを基端側に引 っ張り、楔要素が、スリーブの先端部に係合して、楔作 用によってその中で確実に固定されるようにする。楔要 素をスリーブの中で更に前進させると、スリーブは半径 方向に膨張してソケットの内壁に係合し、これにより、 スリーブはソケットの中で確実に把持される。このアセ ンブリを分解するためには、上記ハンドルを基端側に強 制的に引っ張って上記スリーブを基端側に引き出し、こ れにより、ソケットの内側面と楔要素との間に楔作用で 挟まっているスリーブを基端側に引き抜く必要がある。 この装置は、構造的な観点からすると、比較的複雑であ るが、ガイドワイヤと延長ワイヤとの間に強固で安全な 接続をもたらす。しかしながら、アセンブリの適正な接 続又は分解を行うためには、技術を必要とする。更に、 この装置は、事実上、両手による操作を許容せず、ハン ドル、延長ワイヤ、及び、ガイドワイヤのソケットを操 作する必要があり、従って、患者の周囲に通常必要とさ れる人間の数よりも多い数の人間を必要とする。

[0011]

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、延長ワイヤのガイドワイヤへの取り付け状態を改善して、上

述の欠点を解消することである。

【0012】本発明の別の目的は、簡単且つ効果的に製造され、結合及び分解に関する反復的な操作を効率的且つ安全なものとし、特別な技術及び工具の操作を必要とせず、潤滑性のある流体及び他の詰まりを生ずる薬剤の影響を受けずかつ確実で用途の広い結合アセンブリによって、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの取り付け及び取り外しを行うことである。

【0013】上述の趣旨から、本発明の結合アセンブリは、請求の範囲に記載される要件に合致するものである。

[0014]

【課題を解決するための手段】従って、かみ合い手段 が、ソケット手段及びプラグ手段の中の一方に形成され ていて螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段と、上記ソケ ット手段及びプラグ手段の中の他方に形成されていて上 記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段にネジ式に係合す るための係合手段とを備える場合には、極めて迅速に、 努力を必要とすることなく、容易且つ安全に装置を結合 することができる。その理由は、円錐形のネジ式アセン ブリにより、事実上即座にロックすることができるから である。その独特の幾何学的形状によって、円錐形のネ ジ式アセンブリは、十分な確実性及びセフルロッキング 性を有しており、血管の施術の間に結合部(連結部)が 緩む危険性がない。ガイドワイヤ及び延長ワイヤのプラ グ手段及びソケット手段を互いに嵌合させる際には、特 別な向き又は正確な位置決めは、全く必要とされない。 円錐形のネジ式アセンブリは、回転角度が非常に小さい ので、、ガイドワイヤ及び/又は延長ワイヤのねじれ は、無視し得る程度のものである。プラグ手段及びソケ ット手段を互いに嵌合させ、これら両手段を若干回転さ せるだけで、両手段を直接ロックすることができるの で、操作手順は極めて少なく、組み立て用の工具及び特 別な技術は全く必要とされない。アンロック(分解)も 迅速且つ容易に行うことができる。本装置は、極めて少 ない数の完成品を必要とし、アセンブリは、螺旋状に巻 かれた円錐形のリブ手段、及び、該リブ手段にネジ式に 係合するための手段に限定される。円錐形のネジ式アセ ンブリは、非常に僅かの回転角度で確実なロックを行う ことができるので、結合部 (接続部)の長さは短い。こ れにより、ガイドワイヤと延長ワイヤとの間の接合部の 可撓性に与える上記結合部の剛性の影響は、事実上無視 し得る程度のものである。また、結合アセンブリは、ガ イドワイヤ及び延長ワイヤの直径方向の寸法に殆ど依存 しないので、ガイドワイヤを異なる直径の延長ワイヤで 延長することを可能とする。従って、ある延長ワイヤを 在庫として保管しておき、そのような延長ワイヤを用い て種々のガイドワイヤを延長させることができる。

【0015】この意味において、本装置の多様性は、その利点を失うことなく、種々の形態を可能とする。

【0016】例えば、螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手 段は、上記プラグ手段に形成された円錐形の雄ネジ部を 備えることができ、別の実施例においては、上記螺旋状 に巻かれた円錐形のリブ手段は、上記プラグ手段に設け られた円錐形のコイルを備えることができる。上記螺旋 状に巻かれた円錐形のリブ手段に係合するための上記係 合手段は、上記ソケット手段に形成された円錐形の雌ネ ジ部を備えることができ、別の実施例においては、上記 螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段に係合するための上 記係合手段は、上記ソケット手段に形成された円錐形の コイルを備えることができる。また、上記螺旋状に巻か れた円錐形のリブ手段にネジ式に係合するための上記係 合手段は、上記ソケット手段に取り付けられたリング手 段を備えることができ、そのようなリング手段は、円形 の内側隆起部を含むのが効果的である。上記螺旋状に巻 かれた円錐形のリブ手段が、上記プラグ手段に形成され た円錐形の雄ネジ部を含む場合には、この形態は、上記 螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段にネジ式に係合する ための上記係合手段を形成する形態(すなわち、円錐形 の雌ネジ部)、あるいは、上記ソケット手段に設けられ ていて通常は円形の内側隆起部を有している上記リング 手段と共に用いることができることは、容易に理解され よう。同様に、上記螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段 が、上記プラグ手段に設けられている円錐形のコイルを 含む場合には、この構造は、上記螺旋状に巻かれた円錐 形のリブ手段にネジ式に係合するための上記係合手段を 形成する構造(すなわち、上記円錐形の雌ネジ部)、あ るいは、上記円錐形のコイル、若しくは、上記ソケット 手段に設けられていて円形の内側隆起部を有するか又は 有していない上記リング手段と共に使用することができ ることも、容易に理解されよう。

【0017】更に別の実施例は、上記螺旋状に巻かれた 円錐形のリブ手段を上記ソケット手段に形成することを 可能とし、この場合には、上記プラグ手段は、上記螺旋 状に巻かれた円錐形のリブ手段にネジ式に係合するため に該プラグ手段に形成されたリング手段を含んでおり、 該リング手段は、円形の外側隆起部を有するのが効果的 である。また、円形の外側隆起部を有しているかあるい は有していない上記リング手段は、上記螺旋状に巻かれ た円錐形のリブ手段を形成する構造(すなわち、円錐形 の雌ネジ部)、あるいは、円錐形のコイルと共に使用す ることができることも理解されよう。

[0018]

【発明の実施の形態】本発明の上記及び他の目的、特徴並びに利点は、図面を参照して以下の詳細な記載を読むことにより、容易に理解されよう。図面は、本発明の好ましい実施例を単なる例示として図解的に示している。【0019】図1乃至図3に示す結合アセンブリは、ガイドワイヤ1を延長ワイヤ2で延長するためのものである。ガイドワイヤ及び延長ワイヤは共に、部分的に示さ

れている。

【0020】結合アセンブリは、ガイドワイヤ1の基端 部4に形成されているソケット3と、延長ワイヤ2の先 端部6に形成されているプラグ5とを備えている。

【0021】ソケット3の内側には、円錐形の雌ネジ部7が形成されており、この雌ネジ部のフレア部(拡大部)38は、ガイドワイヤ1の基端部4の外方を向いてる。

【0022】プラグ5の外側には、円錐形の雄ネジ部8が形成されており、この雄ネジ部の円錐形の頂点は、延長ワイヤ2の先端方向を向いている。

【0023】図3に示すように、プラグ5及びソケット 3は、円錐形の雄ネジ部8を円錐形の雌ネジ部7に挿入 して螺合させるだけで、組み立てることができる。逆の 手順によって、分解することができる。

【0024】図4及び図5は、プラグ及びソケットの形態の第2の実施例を示している。

【0025】このソケット9も、ガイドワイヤ11の基端部10に形成されており、一方、プラグ12は、延長ワイヤ14の先端部13に形成されている。

【0026】ソケット9の基端部10に設けられている 円錐形の凹所15の中には、例えば、接着剤によって、 円錐形のコイル16が取り付けられており、該コイルの フレア部(拡大部)は、ガイドワイヤ11の基端部10 から外方を向いている。

【0027】延長ワイヤ14の先端部13には、例えば、溶接又は接着剤によって、円錐形のコイル18が取り付けられており、このコイルの円錐形の頂点は、延長ワイヤ14の先端方向を向いている。

【0028】プラグ12及びソケット9の組み立ては、プラグ12の円錐形のコイル18をソケット9の中に挿入して螺合させるだけで、図1乃至図3の実施例と同様に行うことができる。その分解も、逆の手順によって行うことができる。

【0029】図6及び図7には、ソケットの第3の実施例が示されている。この実施例においても、ソケット20は、ガイドワイヤ22の基端部21に形成されている。

【0030】ソケット20は、凹所23を有している。 この凹所の中に、円形の内側隆起部25を有するリング 24が、例えば、接着剤で固定されている。プラグ(図 示せず)は、図2に示すプラグ又は図5に示すプラグと することができる。組み立ては、プラグをリング24に 挿入して螺合させるだけで行うことができる。リングの 隆起部25は、図2の円錐形の雄ネジ部又は図5の円錐 形のコイルにネジ式に係合することになる。

【0031】図8及び図9は、プラグの第3の実施例を示している。この実施例においては、プラグ26は、ガイドワイヤ28の基端部27に形成されている。

【0032】プラグ26は、円形の外側隆起部30を有

する横断リング29を備えている。ソケット(図示せず)は、図1に示すソケット又は図4に示すソケットとすることができる。該ソケットは、延長ワイヤ(図示せず)の先端部に設けられている。従って、プラグ及びソケットの組み立ては、プラグ26のリングをソケットに挿入して螺合させるだけで行うことができる。リング29の外側隆起部30は、図1の円錐形の雌ネジ部又は図4の円錐形のコイルにネジ式に係合することになる。

【0033】従って、図示の総ての実施例において、ガイドワイヤ及び延長ワイヤの組み立ては、螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段とこの螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段にネジ式に係合するための手段との間のかみ合いによって、行うことができる。

【0034】本発明の範囲から逸脱することなく、変形例を考えることができる。例えば、ガイドワイヤ及び延長ワイヤに対するプラグ及びソケットのそれぞれの取り付けを逆転することができる。すなわち、図面において、プラグが延長ワイヤに設けられており、また、ソケットがガイドワイヤに設けられている場合には、プラグ及びソケットが、ガイドワイヤ及び延長ワイヤにそれぞれ設けられるようにすることは、容易である。図面においてプラグがガイドワイヤに設けられている場合(図9及び図10)についても、同じことが言える。図1乃至図3のプラグ及びソケットの外径は、実質的に同じであるが、それぞれの直径を異なるように構成することもで

きる。

【図面の簡単な説明】

【図1】ソケット手段の第1の実施例の長手方向の部分 断面図である。

【図2】プラグ手段の第1の実施例の長手方向の部分断 面図である。

【図3】図1及び図2の要素を組み立てた状態を示す長 手方向の部分断面図である。

【図4】ソケット手段の第2の実施例の長手方向の部分断面図である。

【図5】プラグ手段の第2の実施例の側面図である。

【図6】ソケット手段の第3の実施例の長手方向の部分断面図である。

【図7】図6の線VII-VIIに沿って取った断面図である。

【図8】プラグ手段の第3の実施例の側面図である。

【図9】図8の線XI-XIに沿って取った断面図である。

【符号の説明】

1、11、22、28 ガイドワイヤ

2、14 延長ワイヤ

3、9、20 ソケット(ソケット手段)

5、12、26 プラグ(プラグ手段)

7、16、24、29 係合手段

8、18 螺旋状に巻かれた円錐形のリブ手段

